

むらかみ

元気マガジン

Vol.19

「村上市で第一号の集落支援員ですが、お願い
します。」とお声掛け頂き、「何をどうすればいいんだろう
と試行錯誤しながら、今年の四月で一年半となります。」

大切にしている事

●地域の人の意見や考えを**誠実**にきく

そこから生まれる人のつながりを大切にします。

●いろいろな人や事柄を結びつける。ハイ、フ役であること

を、自覚し、新しい情報に**敏感**でありたい。

●常に大きい目標と達成してゆく小さい目標をもって

人と関わりながら、前向きに**チャレンジ**する。

●人に恵まれている事に**感謝**しながら、休日は充分

リフレッシュして、**元気に楽しく**仕事をこなす。

★唯一の自慢は、人も食べ物も好き嫌いが

少ないので、いも体も**健康**というところです。

荒川の金屋地区集落支援員 酒井幸子

CONTENTS

【特集】

地域づくり自慢大会

活動発表総まとめ

2

【買物支援】

山北地区まちづくり協議会

3

【運動会×防災】

神納東地域まちづくり協議会

【防災】

砂山地域まちづくり協議会

4

【関係人口】

神納地域まちづくり協議会

【交流+関係人口】

館腰地域まちづくり協議会

5

【地域財+愛着形成】

塩野町地域まちづくり協議会

【学校連携】

村上地域まちづくり協議会

6

【学校連携】

あらかわ地区まちづくり協議会

7

面白い人・取組紹介インタビュー

金屋地区

つとじ場「おらだり」直撃！

8

【地域団体紹介】

おやじの会

村上南小学校
村上小学校

特 集

平成30年度 新潟県地域づくり見本市 in 村上
 地域まちづくり組織 活動発表会 (第3回)

地域づくり自慢大会!

活動発表を総まとめ!

村上市内に17あるまちづくり協議会も設立から6年が経過しました。

日本の人口減少・少子高齢化の進み具合は、世界でも最先端。前例が無く、何が正解かわからない時代だからこそ、お互いの取組から学び、活かしていくことが不可欠です。

「お互いの活動からお互いが学びあい、お互いの活動を進化させる」をコンセプトとして、1月26日(土)に開催された「地域づくり自慢大会-2019 冬」の活動発表をご紹介します!

高齢者を対象にした買い物困難者支援に取り組むことになり、その第一歩として山北地区まちづくり協議会、地域おこし協力隊、さんぼくスポーツ協会、互近所ささえーる隊が連携し「買い物バスツアー」を試行しました。

買い物だけに留まらず、商品を選ぶ楽しみ、出かける楽しみ、健康づくり、さらには集落内の新たなコミュニケーションづくりのきっかけとすることを目指しています。

10月の第1回には大毎・大沢集落の70歳以上、14人の女性が参加、12月の第2回には寒川・脇川集落



ウォーキングしながらの買い物で健康づくりも!



買い物支援の第一歩へ様々な団体がひもとく!



あなたのお出かけ応援します! 買い物バスツアー試行
山北地区まちづくり協議会

【 質疑応答の内容 】

- バス利用の手続きは?
 → 買い物だけでなく健康づくりも目的にさんぼくスポーツ協会のバスを使用。
- なぜイオンだったのか?
 → イオンが地域貢献事業として買い物支援を後押ししている実績があるため。
- なぜ男性の利用はないのか?
 → 地域の茶の間利用者に声を掛けた。買い物は女性からのニーズが高い。

の70歳以上、4人の女性が参加し、マイクロバスでイオン村上東店・村上プラザへ出かけました。

参加者からは多くの喜びの声があり、買い物をするだけでなく、バスで出かけること、体操、食事、参加者同士の交流など、様々な楽しみがあることが分かりました。

次年度は今回の活動結果を検証し、まち協部会間での連携・共有を図りながら、買い物困難者支援の取組を進めていきたいと考えています。



競技をしながら自然と身につく防災知識

中学生以上全住民アンケートをとった結果、暮らしの中の困りごと3位は「災害への備えや避難」。そして、今後まちづくり協議会が取り組むべきテーマの1つが避難訓練・連絡体制の整備などの防災活動でした。

そこで、毎年体育の日に開催している神納東ふれあい運動会で、今年地域全体で防災の意識を高めるため防災訓練を兼ねた競技を考えました。担架を作り案山子を乗せたあんしん・あんぜん搬送リレーと防災借り物競争です。非常



避難所運営ゲームで防災意識改革。



ふれあい運動会で楽しみながら防災知識を覚える

神納東地域まちづくり協議会

【 質疑応答の内容 】

- 運動会参加者の人数・年代は？
→ 概ね200人、地域の運動会のため子どもからお年寄りまで参加した。
- アンケートの困りごと順位3位のものから手を付けたのはなぜ？
→ すぐにできるところから着手した。
- 防災意識の高まりは実感できたか？
→ 今回初めての取組なので、これだけで高まるとは思ってない。継続していくことで浸透させたい。

用持出袋をバトンにし、これだけは持ちたい10の防災グッズを入れていくリレーです。景品にも防災グッズを贈呈するなどの工夫がされました。

笑顔があふれる中で防災を学ぶ今までにはない取組で、今後さらに防災意識の向上・普及を目指します。

また、今回運動会に参加しなかった方への周知や、他団体との連携をどうするかなどの課題も今後検討していく予定です。

防災に対する住民の声を、第3期まちづくり計画（目指すべき将来像）に反映させるための活動の一環として、避難所運営ゲームHUG（ハグ）を行いました。HUGは静岡県の危機管理局が企画開発した防災カードゲームで、平常時から、住民が避難所運営について考えることができるツールです。

このゲームには、区役員、防災士、民生委員、消防団、教頭先生、集落支援員など、様々な立場の人が参加しました。緊急災害時にこうすべきという「正解はない」ということが理解できたとともに、それぞれの立場でいざという時に何をすべきか考える機会となったのは大きな収穫となりました。

今後は、今回の学びを踏まえて「地域住民、施設管理者、行政職員」の三者が集まって、避難所運営について検討する機会を作りたい」との意見もあり、最終的には、防災に限らず、地域全体でさまざまな課題解決に取り組む体制につなげていきたいと考えています。



ゲームを通して楽しく防災を考える。



合同防災訓練で避難所運営ゲームをやってみた

砂山地域まちづくり協議会

【 質疑応答の内容 】

- 参加者の人数・年代は？
→ 30～60代まで40名が参加。
- 周知方法は？
→ 今回は参加者を限定し各集落から推薦。
- カードゲームはどうしたらできるか？
→ むらかみ出前講座のプログラムになっているため、申込みすれば無料で実施可能。



グループごとに避難所を運営し、学びを深めた



関係人口を増やすための第一歩 神納地域まちづくり協議会



出身者へのアンケートで身近な関係人口を目指す。



平成29年度に中学生以上全員を対象に実施したアンケート結果を受け、神納地域で育ち、現在地元を離れ生活している若い方(概ね40歳代まで)を対象に、神納地域出身者アンケートを実施しまし

た。年々、これからの地域を担う子どもたちが減少する中、外からの目線での神納地域の良さや問題点、定住意向などの意識を把握し、元気なまちづくりにする取組に近づけることが目的です。出身者が帰省する8月に対象地域(10集落)全世帯と成人式でアンケート用紙を配布し、74名から回答を得ました。主に年代別、家族構成、Uターンの意向、神納地域の印象の変化等で集計を行いま

した。

調査結果ではUターンできない理由として「仕事や生活の維持が確保できないと思う」という回答や、また日常生活の不安や不満に感じていることでは、「不動産の維持管理、地域・集落等での仕事や行事が多くて忙しすぎる」との回答が多くありました。

この結果を受けて、しっかりと課題を見つめながら、関係人口を増やし「人が減っても安心して暮らせる地域づくり」を検討していく予定です。

【 質疑応答の内容 】

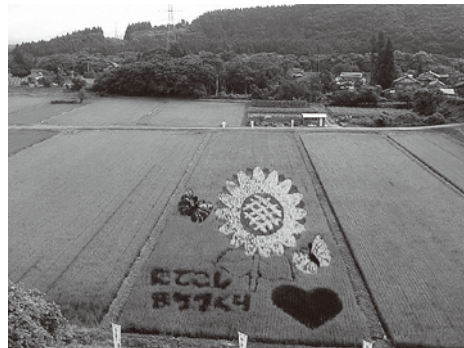
- なぜ出身者アンケートなのか？
→ 昨年、中学生以上全住民アンケートは実施しており、さらなる調査が必要だと考えたことから。
- 住民に対し周知や意見交換の予定は？
→ これから結果を回覧していく予定。
- 結果を踏まえての次の一手は？
→ これから検討していく。



「人交密度」を高め、関係人口の増加につながる田んぼアート 館腰地域まちづくり協議会



田んぼアートで魅せる農業へ。



田んぼ一面の色鮮やかなひまわりが完成!

の選定などを行い、アートを眺める見学台には協力金箱や自由記載ノートを設置。田植えや稲刈りは、地域内外の方との交流を図るためのイベントとして実施しました。

この活動により、住民同士の協力する意識が向上し、地域内外から見学者が訪れることで、地域活性化という側面において大きなインパクトを残せたため、今後は夜間のライトアップなども検討しています。

館腰地域ではこれまで「軽トラ市」などを行なってきましたが、1日という短期間の活動であるためその地域活性化の効果には限度を感じていました。そこで「子どもから高齢者まで、長期間楽しめるイベントはないか」と試行錯誤した結果、米作りと地域のアートを長いスパンで行うことができるとなりました。会場は熊登集落で行い、アートの図柄は旧朝日村の花であるひまわりを描くことにしました。作品を表現するにあたっては苗の種子

【 質疑応答の内容 】

- 見学者との交流で効果があったか？
→ 熊登という集落の認知度が上がった。
- 周知の方法は？
→ 稲刈りイベントなどは、紙媒体や市報を通じて実施。facebookも有効活用した。
- 今後も続けられるのか？ 予定は？
→ 来年度も継続していく予定。(6月上旬にイベント開催予定)



愛郷心を育む子どもたちのお宝めぐり

塩野町地域まちづくり協議会



地域財を活かし、まちあるきで愛郷心を育む。

平成29年に地域のお宝箇所をまとめた『しおのまち図』を発行しましたが、「その内容をもっと多くの人に伝えていきたい」という思いから、ふるさとの伝承を多くの世代で共有し、将来的に観光資源の掘り起こしにもつながる「まちあるきのモデルコース」を試作する取組を行いました。

まちあるきでは、地域の子どもたちと集落の歴史やいわれに詳しい案内人の話を聞きながらクイズ形式でめぐり、まわり終わったら「見たこと、聞いたこと」の情報を参加者自らがマップを手書きで作成します。「毎日見ているものに、ちゃんと意味があることを知ることができた」など、大きな反響を得ることに成功しました。

今後へ向けて「気軽に歩いていけない場所をどうめぐるか」「より多くの世代や親子で参加してもらうにはどうするか」など課題も見えてきており、「将来的には、地域内すべての集落において同様のまちあるきを実施したい」と意気込んでいます。



子どもたちが楽しみながら歴史や文化を学んだ

【 質疑応答の内容 】

- 子どもたちを多く巻き込めた理由は？
→ 子どもたちの口コミ！
- 小さなお宝とはどんなものか？
→ 子どもたちは蟻地獄に興味津々だった。
- 地図を活用し観光客誘致・交流拡大は？
→ まだ考えていないが、企業・NPOなどから「地域を案内してほしい」という要望があるため、活用していきたい。



小学校との連携プロジェクト

村上地域まちづくり協議会



地域ぐるみの子どもを育む。

地域と小学校が連携した活動として、「小学校おやじの会」とのイベント協働実施や、「お祭り体験講座」「村紙バッグ」作りなど多岐にわたる取組を行っています。

さらに、今後の大きな柱として『元気づくりプロジェクト事業M・C・D・P』を始動させました。

この活動は、平成28年11月「村上地区区長会秋の研修会」で行われた村上小6年生による「私たちが描く村上の未来予想図発表会」が契機となっています。このと



お祭り体験講座でお囃子演奏を体験する子どもたち

【 質疑応答の内容 】

- 子どもたちの他の提案は何？
→ お城山マラソン／歴史探検など。すぐに取り入れられそうなものは、事業計画の中で対応している。
- バルーン計画を選んだ理由は？
→ 一番規模が大きく、子どもたちが喜びそうだから。
- 子どもたちの役割は？
→ イベントポスター制作。
今後配布、掲示も行う予定。

き子どもたちから7つの夢の提案があり、「第2次村上地域まちづくり計画（H29～H33）」の目玉事業として、その中の1つ「村上城バルーン計画」が採用されたのです。

「村上城バルーン計画」とは、お城の形をしたバルーンを設置してその中で遊べるようにするという子どもたちのアイデアです。今年6月8日・9日に開催予定の「お城山フェスティバル」では「村上城バルーン計画」がいよいよ実現します。



まちづくり協議会だからこゝろ小・中・高と連携する
あらかわ地区まちづくり協議会



学校との情報交換で子どもたちの主体性が活きる！

荒川地区は暮らしやすい地域のため、住民に「地域課題」の深刻さが少ないという状況を受けて、地域の人が主体的に地域活動に関わる機会を増やそうと取り組んでおり、学校と連携した活動も盛んです。

金屋小学校と荒川中学校ではラベンダー栽培に加えて、さらに踏み込んで子どもたちが主体的に行動できるような取組をしていきたいと、地域の実情を知ってもらう出前授業を実施しました。

荒川中学校では地産地消スイーツ商品開発やラベンダー石鹸ケースの販売、スクールカフェの企画運営など、地域内外を巻き込んだ取組に発展しています。

荒川高校では、高校1年生に地域内で職業体験を実施。「地元企業の良さを知り、将来地域に残ってほしい」という地域の思いと、「生徒に将来を見据えた学習をしてほしい」という学校の思いが合わさり実現した企画です。

大人の思いを押し付けずに、子どもたちの「やってみよう」をサポート

【 質疑応答の内容 】

- 学校と連携する際のコツは？
 → 中学校は受験・部活があって先生が忙しい。タイミングをみながら意思疎通を図ることがポイント。
- 先生の異動の影響は？
 → 影響は大きいため、今後の課題。
- 「あらほっ」とは？
 → まち協で開設した地域の拠点。ハーブティーなども販売している。ぜひ現地にお越し下さい。

トする活動が、予想以上の拡がりを見せている荒川。今後も地域の方のアクションをサポートし、楽しい地域活動と仲間づくりを行っていく予定です。

中学生によるラベンダーの壁画は商品開発にも展開



意見交換会での感想

- 違う環境でのまち協の活動が聞けて良かった。地域あつての自慢題材が色々あること、イベントで終わることなく、課題解決に向けた活動になっていること、そのために「連携」の重要性を深掘りしていることを感じる事ができた。
- 地域により抱える問題が違う。地域性や規模にも差を改めて感じた。
- 具体事例をたくさん見せていただけたこと。それを実際に実行した人の生の声で「楽しんでいる」ことが伝わってきた。
- まちづくりをしている他団体も含めた大会、意見交換会があると良いと思う。他のまちづくり活動をもっと勉強したい。
- 子どもたちのやってみようをサポート、大切に思えた。あてがうのではなく一緒に積み上げること。
- 今後は学校の統合が控えているので、小中学校との連携の仕方が重要になってくると思う。
- 防災についての関心が高く、様々なイベントと組み合わせた取組をしている。楽しむことより、安心安全に力を入れている団体が多い。高齢化対策にも工夫があり参考になった。
- 若者の地域参加。小中高生が参加することは大切。地域行事に出ることに意味がないと思う若者が減ってくることを望んでいる。
- 多くの人たちと同じ想いを共有することができた。皆、悩みながら頑張っていることに力をもらえたことが良かった。
- 子どもたちのやりたいことに気持ちを添えて実現できるようにし、子どもたちに達成感を与えるようにすることを目指した活動をしていきたい。
- まちづくりについて理解が深まった。
- とにかく、何でもまずやってみることが大事だと感じた！！
- 素晴らしい取組がたくさんあり、地域の将来が明るいと感じた。

荒川・金屋地区 つどい場「おらだり」に直撃！

面白い人・取り組み紹介インタビュー



1月23日(水) 平日にも関わらず金屋地区の公会堂には子どもからお年寄りまで多世代約200名が集い、大いに賑わいました。そこで開催されていたのは、つどい場「おらだり」。

金屋地区住民と金屋小学校6年生と一緒に作りあげたつどい場の裏側には、地域と学校を結ぶ仕掛けがありました。この取組の裏側に迫ります!!

はじまり

きっかけとなったのは、昨年春集落支援員が金屋地区で実施した中学生以上全住民アンケート。その結果から次の取組を考えるにあたり、金屋地区で地域の方と話し合う場を設けようと企画が始まります。

ちょうど6年生の子どもたちが「荒川地域の現状と課題」について学んだ金屋小学校。学んで終わりではなく、地域の人と一緒に次の行動へつなげていきたいと校長先生から提案があり、金屋小学校とともに企画を進めることになりました。

子どもたちの提案に感動！

準備を重ね開催した「みんなで金屋地区を考える会」には予想を大きく超える約40名の地域の方が参加。日頃からPTAや学校ボランティアなど地域の方の協力が多い学校のため、子どもたちはその感謝を伝える方法として地域の人が集まる場所を開きたいと企画提案し、金屋地区でどのように実現で

地域と学校を結んだキーマン

地域コーディネーター
小川涼子さん

金屋地区 地域の方々
(PTA・学校ボランティア等)

集落支援員

金屋小学校
佐藤校長先生

荒川支所 担当者

金屋小学校
6年担任岡本先生

地域

学校

春 住民アンケート実施
夏 結果公表

9月 総合学習
荒川地域のことを知ろう 授業

アンケートのその後を考える会
会場とテーマを小学校へ相談

総合学習をふまえ、子どもも
何か関われないかと提案

「集い場」を子どもたちと
地域の人で試験実施してみよう！

アンケート結果から自分たちに
できる「集い場」について検討

区長さんはじめ地域の人に
未来を考える会 参加声掛け

「あらほっ」の見学・企画案作成

金屋地区の未来を考える会開催!!

子どもたちの案を元にして
地域の実状など意見交換
自分たちができること検討

企画案発表
意見交換で記録係

実行委員会立ち上げ
役割分担・声かけ・準備

会場見学・役割分担・準備

つどい場「おらだり」開催!!

皆の協力で発展し続けた場

カフェ・野菜等直売・陶芸展示・手芸品展示販売・昔の遊び体験・体力測定など、多くのブースが用意されたつどい場。当日飛び入りスタッフも含め地域の方20名が参

きるか参加者と一緒に話し合いました。

子どもたちの立派な発表から地域と学校のつながりが郷土愛を育んでいたことを実感し、「楽しい金屋地区のために一緒に頑張っていこう!」という機運が高まりました。

画し、地域の方約200名が参加する大イベントになりました。子どもたちはスタッフとして忙しくしながらも、自分たちの考えた企画が現実のものとなり、嬉しそうなお様子。参加者からも次の開催を待ち望む声が聞こえるほど大成功でした。子どもも大人も本気で地域のためになることを考えたこの企画。子どもたちのアイデアと、地域の方々の行動力、そしてキーマンとなる人たちが子どもたちを地域の皆で育てていこうとする想いがひとつの形になった素晴らしい取組です。

地域団体紹介



おやじの会

村上南小学校・村上小学校

会長：中村 健

会長：藤田 亮

- 活動分野：子育て支援
- 活動地域：村上市内

小学生の子どもをもつ父親が「子どものため・学校のため・地域のため」に活動しているおやじの会。

平成19年に村上南小学校で立ち上がり、現在メンバーは39名。メンバーの多様な職業や特技を活かしながら活動をしています。

運動会では、おやじVS6年生の子どもでガチリレーを行い会場を盛り上げ、夏には老朽化してきた校舎の修繕をするため、子どもたちと一緒にペンキ塗り。木工体験や水鉄砲で遊ぶイベントも行っています。文化祭では、お父さんがスーツにサングラスという出で立ちでハンターとなり、「逃走中」という校舎を使った鬼ごっこ大会を開催しています。

そんな南小の活動に影響を受け、平成25年、村上小学校でも「おやじの会」が立ち上がります。メンバーは40名。学校板柵のペンキ塗りを行うことから活動をはじめ、「逃走中」イベント、肝試し、ペンキ塗り、運動会、竹灯籠まつりへの参加、文化祭での縁日ブー又出展に加えて、子どもたちと一緒にジャガイモなどの野菜づくりを行い、バザーで販売をするなど、



活動の拡がりを見せています。

小学校同士の交流のため、2つのおやじの会合同企画も実施。今年1月には村上地域まちづくり協議会の協力も得て、ジャンボかるたとり大会を行いました。村上の郷土カルタを子どもたちに色塗りをしてもらった後、かるた取り大会と少し早い節分を兼ねて豆まきを実施。村上の歴史を学びながら楽しく交流できるイベントになりました。

子どもたちの笑顔が何よりの原動力と語る会長のお二人。活動を通して、父親同士や先生との情報交換も活発になり、地域の人とのつながりも生まれています。学校・PTA・地域のネットワークをつなぐ架け橋としての役割も果たし、子どもにとっても地域にとっても欠かせない存在となっています。

編集後記

今号は村上市内全域の取組が凝縮されました。環境や課題は違えど、地域のために何かしたいという想いはどこも同じ。まちづくり協議会という組織が、地域の方々の力で多種多様な活動へ発展していることから、ひとつひとつの活動が確実にこの地域の元気づくりにつながっていると実感できます。

様々な取組の中でも、今回の特集では子どもたちとの活動を多く取り上げることとなりました。子どもたちの人数が減り、学校の統廃合が進むことから、地域への誇りや愛着、そして子どもたちの主体性を育むために、学校とのつながりや地域の人のふれあいを大切にされていることが感じられました。

そして、子どもたちのために行われている取組の裏側には、高齢者の方の活躍と笑顔が見られます。こうした活動が地域の方の生きがい・やりがいにつながると思うと、子どもたちが地域と関わることで得られる相乗効果は計り知れません。子どもたちの成長が楽しみです。

〈発行元情報〉

発行日 平成31年3月1日(年2回発行)

取材・編集 特定非営利活動法人

都岐沙羅ハートナースセンター

発行責任 村上自治振興課

連絡先 0254(53)2111

内線3310

